



相生松略記

神功皇后の御世に大国主命を祀り高砂神社が創建されて
まもなく境内に一本の松生い出でたが、その根は一つで雌雄の幹
左右に分れていたので見える者、神木霊松などと称えていたとこ
ろある日、尉姥の二神が現われ「我は今より神霊をこの木に宿し
世に夫婦の道を示さん」と告げられた。此より人は相生の霊松と
呼びこの松を前にして結婚式をあげるようになった。

上代以来和歌に謡曲に有名な相生松の枯死を惜しみ姫路
城主本多忠政は三代目相生松を継植した。

約三十米四方に枝葉を繁茂させ文人墨客の吟料として
その名を世上に広め大正十三年天然記念物に指定されたが
昭和十二年惜しくも松喰い虫に冒され枯死し、今は相生古
霊松舎にその幹のみ名残りを止めている。

現在は秩父宮勢津子妃殿下御命名の五代目相生松が千
有余年の歴史を受継いで玉垣内に緑の色も濃く立ち栄え
ている。松の傍に尉姥神社があり、縁結び、和合長寿の
御神徳と仰がれる尉姥の二神をお祀りしている。

一木かと思えば見れば二木を二木かと思

見れば一木を雌雄のこの松



相生松略記

相生松は、相生松園の中心にあり、その樹齢は約200年と推定される。この松は、相生松園の歴史と文化を象徴する重要な存在である。相生松園は、相生松の栽培と保護を目的として設立されたものであり、その歴史は古くから続く。相生松の栽培には、長い歴史と伝統的な技術が受け継がれており、その美観と精神的な価値は、多くの人々を魅了している。相生松の保護と継承は、我々の文化遺産を守る重要な役割を果たしている。相生松園の歴史と文化を伝えるために、相生松の栽培と保護の歴史をここに記す。

相生松園
相生松の歴史と文化

お生松

相坐古堂









昭和三年三月建設

天然記念物の名向杉の根



昭和三年三月竣工

山王 昭和三年三月



大

奉

岡大寺

大正九年一月

じょううばじんじや
尉姥神社由未

祭神 伊弉諾尊・伊弉册尊

尉姥祭 五月二十一日・二十二日

特殊神事 お面かけ（五月二十一日）

境内にある日一本の松生い出で、その根は一つで雌雄の幹が左右に分れていましたので神木霊松などと称えられていましたところ伊弉諾尊、伊弉册尊の二神現われ「我は今より神霊をこの木に宿し世に夫婦の道を示さん」と告げられました。これより人はこの松を霊松と呼びこの二神を「尉と姥」として今日めでたい結婚式にはなくてはならないものとなりましたのです。また「お前百までわしゃ九十九まで」とうたわれています。す尉と姥は平和と長寿の象徴としてあまりにも有名です。天正年間戦乱の巷にゆく丸知れずとなった「尉と姥」の御神像が寛政七年めでたく京都で見つかり五月二十一日当社で御遷座奉祝祭が盛大に斎行されお面かけ神事はそのお祝として今日まで伝承されております。

高砂神社
高砂市観光協会



純

泰

石燈

石燈













我町

御神燈

御大典奉祝記念





粟魂大神



天満宮